

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90253	比較民俗学研究A	2単位 前期	1・2	講義	吉川 秀樹 (非)

■テーマ 人類学の視点からの art や performing art の研究

■授業の概要

Anthropology、Art、そして Performing Art の特別な関係 Part I

伝統的に非西洋の文化を研究してきた人類学ではあるが、非西洋の「art」や「performing art」は、研究の対象として、また新たな理論、研究方法（研究成果の提示法も含めて）を生み出すインスピレーションとして常に特別な存在であり続けてきた。例えば審美性 (aesthetics)、感情 (emotions)、感受性 (sensitivity)、創造性 (creativity) という異文化研究において方法論上扱いにくい領域に人類学を踏み込ませた。また多くの非西洋文化／社会において精神構造やコスモロジーや社会構造と密接な関係にある art や performing art が、colonization や globalization を通して、西洋の文化／社会に移行することにより、どのような新たな意味や価値等が与えられるか、すなわち異文化／社会間の appropriation の分析に人類学を向かわせた。さらには、人類学における logocentric (文字中心) な研究成果の提示法にも疑問を投げかけ、映像人類学 (visual anthropology) 等の分野の確立へと繋がっていった。そして人類学における art や performing art の研究は、西洋文化／社会の art や performing art の再検証にも影響を与えている。

この授業では、art や performing art を人類学的視点から研究／分析した英語の論文を読み、様々な文化／社会における art や performing art について、そして art や performing art と人類学の関係について考察していく。同時に、大学院レベルで英語の論文を講読するに必要な英語力やスキルを習得していく。

■到達目標

- ・異文化／社会における art や performing art (と分類されるもの) の存在に注目し、その多様性、ならびに共通点や相違点を理解する。
- ・Art や performing art の人類学的研究の視点、理論、方法について学び、art や performing art と人類学の関係について考察する。
- ・研究における英語の論文の講読に必要な英語力やスキルを習得し、向上させる。
- ・学生が各自持つ art や performing art に対するアプローチ／専門性の特徴を、人類学のアプローチとの比較を通して、理解する

■授業計画・方法

授業は、講読する論文についてのクラス・ディスカッションを中心に行われる。学生はディスカッションのための「レジュメ」の準備をすること。また各論文を読み始めるにあたり、パワーポイントや資料を使って文化／社会的背景の説明が教員により行われる。

1. オリエンテーション: Anthropology と Art と Performing Art の特別な関係
プリミティビズム(primitivism) と 普遍性 (the universal)
2. 第2週 “Primitive Art” by Franz Boas (1955) in AA, “Split Representation in the Art of Asia and America” by Claude Levi-Strauss (1963) in AA, “Singing the Rug: Patterned Textiles and the Origins of Indo-European Metrical Poetry” by Anthony Tuck (2006) in AP.
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 機能 (functions)、意味 (meaning)、社会／文化的背景 (socio-cultural context)
Sacred Art and Spiritual Power: An Analysis of Tlingit Shamans’ Masks” by Aldona Jonaitis (1982) in AA, “Modernity and the ‘Graphicalization of Meaning New Guinea Highland Shield Design in Historical Perspective” by Michael O’ Hanlon (1995) in AA, or “Performance and the cultural Construction of Reality” by Edward Schieffelin (1985) in AP.
8. 同上

9. 同上

10. 同上

11. 異文化と審美性 (aesthetics)

“Yoruba Artistic Criticism” by Robert Farris Thompson (1973) in AA, “From Dull to Brilliant: The Aesthetics of Spiritual Power among the Yoruba (1992) in AA, or “What They Came With: Carnival and the Persistence of African Performance Aesthetics in the Diaspora” (2007) by Esiaba Irobi in AP.

12. 同上

13. 同上

14. 同上

15. 同上、まとめ

※ 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

授業におけるディスカッションを充実させるには、そのための準備をきちんと行うことが不可欠である。論文講読で分担された部分を訳し、その内容の要約やコメント／質問等を書いたレジメを準備しディスカッションに臨むこと。分担については授業のなかで学生と教員で決める。

■成績評価の方法・基準

□方法	* クラス・ディスカッションの内容 (レジメと発言)	70%
	** 短評 (article review)	20%
	** 短評についてのプレゼンテーション	10%
	合計	100%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
芸術文化学研究所 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 *The Anthropology of Art: A Reader* (2002), Howard Morphy and Morgan Perkins eds., Blackwell Publishing.

The Anthropology of Performance: A Reader (2013), Frank J. Korom ed., Wiley-Blackwell.

以上から選出した論文や章を教科書とする。授業計画を参照すること。

なお *The Anthropology of Art: A Reader* は AA、*The Anthropology of Performance* は AP と表記している。

□テキスト なし

□参考文献 *Sociology of the Arts: Exploring Fine and Popular Forms*

(2003, Victoria D. Alexander, Blackwell Publishing).

In Praise of Commercial Culture (1998, Tyler Cowen, Princeton University Press).